



令和6年度

地域連携推進事業 活動報告書



九州国際大学地域連携センター

2024（令和6）年度 地域連携推進事業 活動報告書

- 「枝光本町商店街を中心とした地域の
サステナビリティ・デザインに関する産官学協働事業」…………… 1
法学部教授 花松 泰倫
- 「学生による音声英語の発音指導を通しての教育連携及び地域連携活動
（カッコいい英語で剣道しよう！カッコいい英語で凧揚げしよう！）」…… 7
現代ビジネス学部教授 宮武 香織
- 「八幡東区における地域連携の深化促進」…………… 13
現代ビジネス学部教授 三輪 仁
- 「八幡東区コミュニティデザインプロジェクトの
継続・発展にむけた官学共同事業」…………… 17
法学部教授 山中 亜紀
- 「八幡起業塾を通じた学生への実践的まなびの提供、
ならびに連携先との関係強化（包括的地域連携協定）」…………… 21
現代ビジネス学部教授 村上 真理
- 「スポーツでSDGsに繋げよう！」…………… 25
現代ビジネス学部准教授 木下 温子
- 「学生の地域貢献意欲の向上および住民交流促進事業」…………… 31
現代ビジネス学部准教授 素畑 恭介

2024（令和6）年度 地域連携推進事業 活動報告書

事業名	枝光本町商店街を中心とした地域のサステナビリティ・デザインに関する産官学協働事業
連携団体名	枝光本町商店街連合会、夢追塾第18期「好きっちゃ 鐵町ブルース魂」
本学教職員氏名	花松 泰倫（法学部 教授）
事業費の概要	九州国際大学地域連携センター 地域連携推進費
背景	<p>枝光本町商店街を初めとした北九州市内の商店街は近年その衰退が顕著であり、通行量の減少や空き店舗数の増加などに強い懸念が示されている。そのなかで、商店街の未来図を誰がどのように描き、実現していくのか、商店街を地区にとってどのような空間として位置づけていくのかについて、ステークホルダーの間で共有されるイメージや具体的計画が存在しているとは言えない。そこで本学の教員学生、商店街連合会、北九州市役所の連携によって、商店街の持続性ある未来イメージを構築するサステナビリティ・デザイン、およびそのための予備的調査やイベント企画実施による商店街活性化を目指した産官学協働事業を試みた。</p>
取組概要	<p>本地域連携事業は、1. 商店街連合会を中心とした地域組織とその構成事業者、行政サービスの観点から商店街を支える北九州市役所とともに行う産官学の協働事業により、持続可能な商店街の未来を商店街関係者とともにデザインし創出する基盤を構築する、2. そのための予備的調査や合意形成プロセスの実施をゼミや実習という形で本学法学部学生自身が担うことで、学生の地域社会に対する感受性と責任感、リーダーシップ力を育て、人口減少時代に対応できる人材を育成することを目的とする。その上で、(1) 枝光本町商店街の運営サイドの課題に関するインタビュー・ヒアリング調査、(2) 枝光本町商店街のコミュニティ形成に関するヒアリング・インタビュー調査、(3) 枝光本町商店街主催のイベント（感謝祭、定期市など）への運営参加、(4) 他団体との協働による枝光にぎわいイベントの開催、(5) 防災まちづくり活動の可能性調査、(6) 槻田第二地区（八幡東区）でのイベント企画運営、(7) 起業祭への参加、の7つの事業を行った。</p>

事業 活動 内容	<p><u>(1)枝光本町商店街個店・団体・企業へのインタビュー・ヒアリング調査</u></p> <p>枝光本町商店街の現状、魅力、課題等について、商店街で事業を行う個店主および商業施設企業などを対象にインタビュー調査を行った。本調査は、法学部演習科目「専門演習」（花松ゼミ）の学生 18 名が 3 グループに分かれ、7 月 5 日（金）および 12 日（金）に 10 店舗・団体へのインタビュー調査を実施した。個店主の高齢化と後継者不足が認識される一方で、対面販売のみならずネット販売やイベント出店などを通して全国的な販売網を形成している人気店、リノベーション等を通して若者に人気の飲食店として注目される店が徐々に増えている傾向がある。他方で、商店街の魅力や今後の見通しについて明確な意見を聞き出すには至らなかった。商店街の内側だけではなく外側にいる本学学生の視点から商店街の魅力を発見し引き出す工夫が必要になることがわかった。</p> <p><u>(2)枝光本町商店街のコミュニティ形成に関するヒアリング・インタビュー調査</u></p> <p>枝光地区は製鉄業の衰退によって急速に人口が減少し、現在では北九州市内の中でも比較的高い高齢化率となっており、丘陵地帯での住みにくさゆえに空き家問題も深刻になっている。枝光本町商店街のみならずそれを取り巻く枝光地区全体のコミュニティ形成に関する現状と課題について、法学部演習科目「専門演習」（花松ゼミ）学生 18 名、および「リスクマネジメント実習 2」防災まちづくりグループ学生 7 名とともに、北九州市八幡東区役所コミュニティ支援課、枝光第二自治区会長の宮地久男氏へヒアリング調査を行った。それによれば、地域の高齢者や子供たちを巻き込んだ自治会活動は活発で、まちづくり協議会や育成会、婦人会、北九州市立ひびきが丘小学校 P T A との連携を強化している。また丘陵地という災害に脆弱な生活環境を改善するため、九州大学大学院人間環境研究員志賀研究室の協力で危険箇所を点検するまち歩き活動を 10 年以上続けており、地域の防災に関する取り組みを自律的に行おうとする姿勢が特徴的である。さらに、自治区会や町内会へ加入せずに見守りネットワークからこぼれ落ちる高齢者や障害者に対して、地域の民生委員 12 名と緊密な連携を取る自治的な活動も継続して行っていることもわかった。他方で、丘陵地帯を結ぶ乗合バス事業を行う地元のタクシー業者（ひかりタクシー）が廃業となり、全国的に注目を集めていた持続可能な地域交通システムの取り組みが頓挫したことから、コミュニティをいかに形成するかが課題になっていることがわかった。</p> <p><u>(3)枝光本町商店街主催のイベントへの運営参加</u></p> <p>枝光商店街では地域住民向けの触れ合いイベントを定期的かつ頻繁に開催しており、多くの地域住民の参加がある。毎月 10 日と 20 日に「市」を開催するほか、ナイトマーケット、地区内にあるひびきヶ丘小学校と連携した「枝</p>
----------------	---

光こども商店街」、2022年10月に発生した商店街火災への支援に対する感謝を込めたイベント（枝光本町商店街感謝祭）などが開催されている。今年度は、2024年4月13日（土）の「春の感謝祭」、2024年10月4日（金）の「枝光本町商店街夜市」、2025年3月19日の「枝光本町商店街二十日市&夜市」に法学部「専門演習A」（花松ゼミ）の学生18名が参加してイベント運営および企画協力を行った。

(4)他団体との協働による枝光にぎわいイベントの開催

退職後のシニア世代を中心に地域活性化などの社会的課題に取り組む「夢追塾」第18期生の方々との協働事業として、2024年5月19日（日）に「好きっちゃ鐵町まつり」を開催、企画運営を行った。かつて「鐵の町」としてにぎわった枝光を、枝光本町商店街の関係者、地域住民とともににぎわいあふれる街にしていくことを目的に、かつて文化の中心地でもあった枝光の面影を感じてもらうため音楽や芸能を中心としたステージ企画も実施した。

(5)防災まちづくり活動の可能性調査

枝光地区は丘陵地の危険箇所を点検するまち歩き活動を行ったり乗合バス事業を展開する一方で、個々の住民に対して防災意識を高める活動を行うには至っていない。特に、丘陵地であることから避難が困難となる高齢者や単身世帯者、障害者に対する防災上のケアがどこまでなされ、どこまで可能なのかについては明らかではなく、本可能性調査を通じて本学の地域連携事業として実施可能な企画が検討できないかどうかを調査することとした。

そこで、法学部「リスクマネジメント実習」防災まちづくりグループ学生7名とともに枝光地区住民を対象とした防災まちづくり活動をスタートするための予備的調査を行った。八幡東消防署予防課の入門真生氏にインタビュー調査を行った後、枝光第二自治区会長の宮地久男氏に相談し、民生委員による高齢者見守り活動に同行させて頂くことで、避難が困難な高齢者に対する防災上のレクチャーや相談等が可能かどうかを探った。その結果、見守り活動に伴うヒアリングのなかで住民のプライバシーをどのように確保するかという問題が認識され、信頼関係が構築された民生委員ではなく毎年メンバーが代わる学生がプライバシーを確保した上で十分に効果的な実習活動を行うことは困難であるという結論に達した。

(6)槻田第二地区（八幡東区）でのイベント企画運営

申請時の予定にはなかったものだが、枝光と同じ八幡東区における槻田第二地区のサステナビリティデザイン構想を検討する機会を得て、いくつかの地域連携事業を行った。槻田第二地区は、2023年12月に八幡東区役所コミュニティ支援課と八幡東区自治総連合会が主催した「八幡東区コミュニティデザインプロジェクト」ワークショップで連携の相談を受けた。そこで、法学部演習科目「専門演習」（花松ゼミ）の学生18名の実習活動として、2024

	<p>年 6 月に地域内の子供および主婦層が地域に関わるきっかけをつくり地区内の新たな「つながり」を形成することを目的とした「ミヤフェス」を協働で企画・開催し、成功させた。その後、2024 年 12 月にも槻田第二地区の町内会長の方々と法学部花松ゼミ生によるワークショップを開催して、今後の地区の持続可能性を高める取り組みについて意見交換を行った。2025 年も引き続き、ゼミ実習活動として自治区会および町内会がさらに関与するかたちでイベントを実施する計画である。</p> <p>(7) 起業祭への参加</p> <p>こちら申請時の予定にはなかったが、槻田第二地区で開催した「ミヤフェス」での協働事業をきっかけに、八幡東区高見まちづくり協議会長でまつり起業祭八幡実行委員会委員の伊藤一義氏から誘いを受け、まつり起業祭での企画および運営に参加した。法学部演習科目「専門演習」（花松ゼミ）の学生 18 名および「リスクマネジメント実習 1」履修の法学部 2 年生 11 名が、本部による飲料販売のサポートおよび子供向け独自企画の実施を行った。</p>
効果・結果	<p>以上の活動により、以下の効果、結果および見通しが得られた。</p> <p>(1) 枝光本町商店街の個店および事業者へのインタビュー調査により、各事業者が事業を継続するに当たっての課題、商店街の未来に対してどのような展望、問題意識を持っているのかなどが明らかになった。</p> <p>(2) 枝光および槻田でのイベント参加を通して、本学学生が商店街関係者や周辺住民とともに協働作業を行うきっかけを掴むことができた。特に、事業者の高齢化が進む商店街の活性化を考えるに当たって、本学学生が実習活動の一環として予備調査やアイデア提供、当日の具体的作業を通して貢献することが十分に可能であることが実証された。2025 年度に入っても引き続きイベント参加にお声掛けいただくなど、九州国際大学が地域イベントのなかで欠かすことのできないステークホルダーとなっている。この貢献を基盤として、今後も地域に対する本学のプレゼンスの向上、信頼関係醸成に今後も務めたい。</p> <p>(3) 防災まちづくりに関する取り組みでは、民生委員による協力を得て社会的弱者に対する防災上のサポート企画の検討を試みたが、高齢者や単身世帯者、障害者のプライバシーを確保しながら本学学生が実習活動として調査や企画を実施することが非常に困難であることが明らかになった。</p> <p>以上の結果により、本学学生の教育効果を内在化させた産官学協働事業の基盤が確立し、次年度以降の連携事業の発展が大いに期待される。</p>

活動記録



宮地久男氏へのインタビュー調査



枝光本町でのインタビュー調査



枝光本町でのインタビュー調査



枝光本町本町「感謝祭」



枝光本町本町「感謝祭」



「好きっちゃ鐵町まつり」



防災まちづくり予備調査



槻田第二地区「ミヤフェス」



槻田第二地区「ミヤフェス」



まつり起業祭八幡

2024（令和6）年度 地域連携推進事業 活動報告書

事業名	学生による音声英語の発音指導を通しての教育連携及び地域連携活動（カッコいい英語で剣道しよう！カッコいい英語で凧揚げしよう！）
連携団体名	(1)花尾小学校 (2)済美保育園 (3)枝光本町商店街 (4)JICA九州
本学教職員氏名	宮武 香織（現代ビジネス学部 教授）
事業費の概要	九州国際大学地域連携センター 地域連携推進費
背景	<p>2020年度より、地域に根差した英語教育のあり方を模索する中で、宮武ゼミでは地域の教育機関（小学校・保育園）や金融機関、JICA九州、近隣商店街等と連携した英語音声教育の地域連携活動をスタートさせた。</p> <p>特に、英語発音に焦点を当てたアプローチは、日本の学校英語教育において見過ごされがちな「音声指導」に着目し、大学生による指導・実践を通じて、幼児・児童の発音習得を支援するとともに、指導側である大学生自身の「インプット→アウトプット→キャリアオーバー（継続的応用）」の学習循環を形成してきた。</p> <p>さらに、地域との繋がりを一過性に終わらせず、ゼミの世代交代を経ても持続的に継承される体制を整えていることが、この活動の独自性かつ強みである。</p>
取組概要	<p>2021年度以降、北九州市立花尾小学校および済美保育園における授業・保育支援を継続的に実施し、定期的な英語発音ワークショップを展開。また、2022年度からは済美保育園での「早期英語音声教育活動」にも力を入れており、年間を通じたイベントとして定着してきている。</p> <p>これらの活動には国際社会学科のゼミ生に加え、2024年度より地域経済学科や法学部の学生もサークル「KIU FRaT & Sorority」として参画し、学部横断的な協働が実現。さらに、商店街（祇園町・枝光本町）との世代間交流、JICA九州との国際交流、名古屋の大学及び学童保育との連携など活動の幅も広がっている。</p>

事業 活動 内容	<p>(1) 授業・保育ボランティアおよび発音ワークショップの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北九州市立花尾小学校での英語授業サポート（通年） ・ 済美保育園での保育ボランティア（通年） 活動者：2年、3年宮武ゼミ生 英語発音ワークショップ（保育園・小学校年2回） ・ 対象：年長児～小学生 指導：2年、3年宮武ゼミ生 FRaT & Sororityメンバー（国際社会学科大園ゼミ4年生・木戸ゼミ3年生） <p>(2) JICA九州との国際スポーツ文化交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館を用いた外国人研修生とのスポーツ交流イベント ・ 剣道と羽子板といった日本文化の紹介 *羽子板作りと羽子板あそび *剣道胴着を着用して写真撮影と「なんちゃって剣道」実践 参加：宮武ゼミ生、FRaT & Sororityメンバー（法学部剣道部、地域社会学科三輪ゼミ2年生、国際社会学科大園ゼミ4年生、木戸ゼミ3年生、山田ゼミ2年生） <p>(3) 学会発表・研究発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本英語教育音声学会全国大会（北海道北見）にて活動報告 発表者：済美保育園園長とゼミ生2名 <p>(4) 地域イベントとの連携（ハロウィーンパレード）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 枝光本町商店街で園児とともにハロウィーンパレードを実施 英語発音ワークショップと連動させ、地域住民との世代間交流を図った。 ハロウィーンパレードでは、園児たちが学んだ英語を使って商店街で「Trick or Treat」を実践し、学生と一緒に作成したブレスレットを手渡ししながら、英語で挨拶と感謝の言葉を伝えた。
----------------	--

効果・結果	<p>本事業は、単なる一過性の地域貢献にとどまらず、教育的・社会的・学術的に多層的な成果をもたらしている。</p> <p>活動の中心にある英語音声教育を通じた早期教育の実践においては、幼児・児童が正確な英語の音声に自然に触れる機会が増えたことにより、英語音への関心や模倣意欲が顕著に向上している。また、発音ワークショップを通じて、楽しみながら正しい音を身につけるプロセスが構築されており、参加した保護者や教職員からも高い評価を得ている。</p> <p>指導者側となる大学生にとっても、学内で学んだ音声学的知見を社会に還元する機会となり、単なる知識習得にとどまらず、実践力・教育力・社会性を養う場として極めて有意義な経験となっている。特に、ゼミ内のみならず、法学部・地域経済学科の学生とも連携し、サークル「KIU FRaT & Sorority」として横断的に活動を展開している点は、学部間・学年間の有機的なつながりを生み出し、大学全体の連携・一体感の促進にも寄与している。</p> <p>継続的な活動を通じて、地域住民からの信頼も着実に醸成されつつある。「今年もやるんですね？」という声が自然と寄せられるようになっており、地域行事としての定着とともに、地域からの期待が年々高まっている。活動に参加した住民の中には、本学に親族が在籍している方々も多く、学生とのふれあいを通じて深い感動を覚え、涙ながらに感謝の言葉を述べる場面も見られた。</p> <p>活動の教育的独自性と先進性が評価され、学术界からの注目も高まりつつある。2024年度は、済美保育園園長およびゼミ生が、日本英語教育音声学会全国大会にて活動報告を行い、今後は学会誌への投稿も予定されている。2023年度に実施した名古屋の大学との共同ワークショップの実績を踏まえ、2024年度後半から2025年度（令和7年度）にかけては、松山大学との学生連携による英語発音に関する共同研究が開始されており、その成果を2025年度の同学会全国大会（於：松山大学）にて研究発表する計画が進行中である。</p> <p>加えて、ゼミ生自身が中心となり、早期英語教育における発音指導の効果に関する実践報告も予定されており、学術的裏付けをもった地域連携モデルとしての確立が期待されている。</p> <p>なお、2024年夏には、ニュージーランドで開催される国際大会において、本活動に参加する学生による口頭発表が予定されており、国際的な場においても本学の英語音声教育モデルが紹介される見込みである。</p> <p>これらの成果を通じて、このゼミ活動が推進する「英語音声を媒介とした地域教育連携」は、単なる地域貢献を超え、教育・研究・国際交流を一体化させた新たな教育モデルとしての評価を高めているとあって差し支えないだろう。</p>
-------	---



活動記録







2024（令和6）年度 地域連携推進事業 活動報告書

事業名	八幡東区における地域連携の深化促進
団体名	(1)八幡駅前開発株式会社 (2)平野市民センター
団体代表者氏名	(1)井上 龍子代表取締役社長 (2)松本 喜義館長
本学教職員氏名	三輪 仁（現代ビジネス学部 教授）
事業費の概要	九州国際大学地域連携センター 地域連携推進費
背景	<p>地域経済学科地域づくりコースにてゼミを担当する申請者はこれまで9期にわたり本助成を受け、連携先団体と協働したさまざまな地域活動に取り組み、学生が主体的に地域づくりに携わる機会を得てきた。</p> <p>さらに2019年度より八幡東区の様々な団体・企業・機関が連携し秋の八幡をアートで彩る「やはたアートフォレスト」に参加し、毎年他の大学・組織・機関とのコラボレーション企画を実施している。</p> <p>また2020年度以降は4年生が卒業研究として連携先の協力を得て地域イベントを主催し、ゼミ生全体が学年横断的これに関わる機会が増えている。</p> <p>本年度においては、4年ゼミ生が個人で『学長裁量経費』を受けて「けやきマルシェ」をプロジェクトオーナーとして開催したことや、8月には「第27回戦争遺跡保存全国シンポジウム北九州やはた大会」を現代ビジネス学会教育・広報支出を受けて開催したこともあり、本年度の本助成の使用に関してはこれらとの線引きを明確にするように図った。</p>
取組概要	<p>1. 本年は2つの連携先団体とともに、以下に挙げる活動を展開した。</p> <p>(1)八幡駅前開発株式会社</p> <p>①KEYAKI TERRACE YAHATA：八幡駅前～国際通りのまちおこし活動 歩道を活用したにぎわい創出 けやきテラス（フリーマーケット）</p> <p>②やはたアートフォレスト IGESと連携した児童向けワークショップの開催</p> <p>③Yotteco YAHATA 八幡駅前・国際通り地区のイルミネーション点灯に合わせたにぎわいづくりイベント</p> <p>(2)平野市民センター</p> <p>①平野塾の活動への参加 八文字カフェ</p> <p>②平野文化祭(10月5-6日)での児童向け企画実施</p>

事業 活動 内容	<p>(3)KEYAKI TERRACCE YAHATA 関連</p> <p>①やはたアートフォレスト 2024</p> <p>②Yotteco YAHATA 11月22日 JICA 体育館</p> <p>(4)平野市民センター</p> <p>①平野文化祭 10月5日：児童向けゲームコーナー企画 10月6日：IGES(公益財団法人地球環境戦略研究機関)北九州アーバンセンターと連携した児童向けレゴシリアスプレイWS(やはたアートフォレスト参加企画)</p> <p>②八幡大空襲慰霊式典や八文字カフェへの参加 8月8日小伊藤山公園での慰霊祭 12月21日平野塾八文字カフェでの学生報告</p>
効果・結果	<p>本年度においては前述のように、これまでゼミの地域連携活動の軸としていた「けやきマルシェ」の広報・運営自体は本事業の対象とせず、次年度以降への持続的発展を高めるための情報収集、ブランディング・PR活動に注力を行った。また、KEYAKI TERRACE YAHATAが八幡地区のイルミネーション点灯に合わせ JICA 体育館で開催する「Yotteco YAHATA」が5年ぶりに開催されることになり、準備・運営に多くの学生が携わるとともに、地元のパン販売事業者からの協力を受けた出店も行った。</p> <p>平野文化祭(平野市民センター)では2日間ともに学生企画を実施することができた。10月6日のIGES北九州アーバンセンターとの連携企画「レゴを組み立ててストーリーを作ろう」は、やはたアートフォレスト2024の参加企画としても実施した。</p> <p>聞き書きボランティア平野塾との連携活動においては、初めて橘祭への企画出展を行ってもらったほか、12月の同会開催の八文字カフェにて学生が調査報告を行う機会を得るなど、8月の戦争遺跡シンポジウムの開催から戦後80年を迎える2025年へとつなげる活動を展開することができた。</p>
活動 記 録	 <p>【8月8日八幡大空襲慰霊祭(小伊藤山公園)】</p>

10月5-6日平野文化祭

5日児童向けゲームコーナー「九国生と遊ぼう」

6日IGES北九州アーバンセンター連携企画

活
動
記
録



【10月5日ゲーム企画】



【10月6日レゴシリヤスプレイ企画】



【企画チラシ】



【11月22日 Yotteco YAHATA】

12月21日平野塾「八文字カフェ」での調査報告



【12月21日平野塾「八文字カフェ」での学生報告】



【けやきマルシェスタッフ用ビブス】



【会場での事前告知看板】

2024（令和6）年度 地域連携推進事業 活動報告書

事業名	八幡東区コミュニティデザインプロジェクトの継続・発展にむけた官学共同事業
連携団体名	(1)北九州市八幡東区役所コミュニティ支援課 (2)北九州市立大学地域共生教育センター地域創生学群
本学教職員氏名	山中 亜紀（法学部・教授）
事業費の概要	九州国際大学地域連携センター 地域連携推進費
背景	<p>八幡東区は自治会加入率が市内平均より高く、現時点では活発に地域活動が実施されているものの、人口減少や高齢化が著しく、将来的な活動の担い手不足やつながりの希薄化に伴う地域コミュニティの衰退が懸念されている。そこで、2023年12月、八幡東区コミュニティ支援課の主導による「八幡東区コミュニティデザインプロジェクト」が立ち上がった。同プロジェクトは、八幡東区内の地域特性が異なるモデル地区において、コミュニティデザインの手法をつかって、課題解決に向けた企画やアイデアを考え、実践を通して解決への筋道を見つけることを目指すものである。</p> <p>コミュニティデザインの提唱者・山崎亮氏（studio-L 代表）による講演「人がつながる楽しさをデザインする」（2023年12月16日@いのちのたび博物館）で得られた知見に基づき、八幡東区内の三地区（槻田第二地区、高槻・山路地区、大蔵第三地区）住民による「人と人のつながりづくり」のワークショップが実施された。ワークショップに参加する大学生の選出を依頼された教員（花松・山中）の声掛けにより、成定香琳が槻田第二地区、原隼介・松永菜々音が大蔵第三地区のメンバーとして加わり、アイデアだしに携わった（2024年1月24日、2024年2月7日、2024年3月5日@レインボープラザ）。なお、高槻・山路地区には、北九州市立大学地域創生学群の学生が参加したことから、実習活動を一部連携することになった。</p>
取組概要	<p>ワークショップの結果、槻田第二地区では荒生田神社でのマルシェ開催、高槻・山路地区では市民センターにおける「しゃべり場」の設置、大蔵第三地区では乳山神社・勝田神社での伝統行事参加や大蔵市民センターでのイベント実施が決定し、2024年4月から具体的な計画立案に着手することになった。「リスクマネジメント実習2」を履修する学生2名（原隼介・松永菜々音）がワークショップに参加させていただいた縁もあり、「リスクマネジメント実習2」では大蔵第三地区を活動拠点とすることに決定した。</p>

事業 活動 内容	<p>2024年4月6日（土）に開催された第一回会議では、コミュニティの存続に危機感をもち、活動に携わる意欲をもつ一部の住民たちの間に「人のつながり」をつくりだすことが第一目標として定められた。「納涼祭」や「肉まん大会」をはじめとするイベント企画は、いうなれば少数メンバーが定期的に来るための「きっかけ」に過ぎず、少なくとも3-4年間のスパンで、地域活動を担うメンバーを少しずつ増やしていくことに注力することになった。</p> <p>前述の問題意識のもと、大蔵市民センターに定期的集い、少数メンバー間の交流を深めていくこととなった。レインボープラザでのワークショップにおいて、「肉まん大会」開催というアイデアがあがっていたため、まずは「肉まんづくり」の工程を学ぼうと、大蔵市民センターの調理室で「肉まん」をつくり、それを食しながら、話し合いを重ねていった。</p> <p>そうした話し合いのなかで再確認されたのが、(1)地域の伝統行事への参加者集めに苦労している、(2)大蔵地区では子ども会活動が機能しておらず、子どもたちのつながりが希薄化あるいは偏在化している、という現状である。</p> <p>(1)にかんしては、自治区会長からの要請を受け、乳山八幡神社（福岡県北九州市八幡東区大蔵 2-16-33）で例年7月上旬に開催される祇園大祭に参加した（ブログを参照）。積極的に祭りを盛り上げようとする学生の姿は、大蔵地域の方々から高く評価していただいた。</p> <p>「リスクマネジメント実習2『乳山八幡神社（八幡東区大蔵）の祇園祭』」 https://www.kiu.ac.jp/2024/07/15/post-36342/</p> <p>(2)についていえば、むろん地域もこの現状を放置しているわけではなく、大蔵小学校に通う児童たちが学年を超えたつながりをつくる場として、大蔵市民センターは月に一回土曜学級「おおくらっ子」を開催している。この土曜学級の実施・運営は、市民センター職員が担っているのだが、十分な人員を割くことは困難であり、毎回の企画に頭を悩ませているとのことであった。</p> <p>そこで、「リスクマネジメント実習2」履修者の一部（15名）が、11月開催の「おおくらっ子」を企画運営実施することとなった（ブログ参照）。</p> <p>「リスクマネジメント実習2『大蔵コミュニティデザインプロジェクト』」 https://www.kiu.ac.jp/2024/10/31/post-37975/ https://www.kiu.ac.jp/2024/12/13/post-38698/</p> <p>また、年末の恒例行事として、勝山北団地で12月に開催されている「ふれあい餅つき大会」にもお誘いいただいた（ブログ参照） 「リスクマネジメント実習2『大蔵コミュニティデザインプロジェクト』」 https://www.kiu.ac.jp/2024/12/22/post-38827/</p>
----------------	--



2024年度の活動については、「八幡東区まちづくり研修会『人と人とのつながりづくり』」において、報告する機会を得た。

日 時 令和7年2月1日(土) 10:00~12:45
 会 場 響ホール(八幡東区平野1-1-1)
 参 加 費 無料
 定 員 350名(要申込)
 主 催 北九州市
 八幡東区自治総連合会・八幡東区環境衛生協会連合会



<基調講演> 10:10~11:40

講 師 鹿児島大学 教授 金子 満氏

テーマ みんなが元気になる新たなコミュニティ組織の再構築を目指して



<活動事例発表> 11:50~12:40

令和5年度に実施した「八幡東区コミュニティデザインプロジェクト」に参加した3地域(槻田第二、大蔵第三、高槻・山路)による発表を行います。(学生も登壇予定)



「事業（活動）内容」で示した(1)地域伝統行事への参加については、今年度も引き続き乳山八幡神社の祇園大祭に、学生を参加させてほしいという要請を受けている。また、8月に大蔵公園で開催される「納涼祭」に、学生企画を出展してほしいとの打診も受けており、「リスクマネジメント実習2」受講学生と相談しながら参加を検討する予定である。

同じく(2)大蔵市民センター主催の土曜学級「おおくらっ子」についても、今年度も11月の「おおくらっ子」を「リスクマネジメント実習2」受講学生が企画運営することが決定している。

効果・結果

- 2024/01/24・02/07・03/05 コミュニティデザイン WS@レインボープラザ
 2024/04/06 打ち合わせ会議@大蔵市民センター
 2024/05/17 肉まんづくり 1回目@大蔵市民センター
 2024/06/27 リスク実習 2 ガイダンス@九国大
 2024/07/06 リスク実習 2 皿倉山フィールドワーク
 2024/07/07 乳山神社祇園大祭



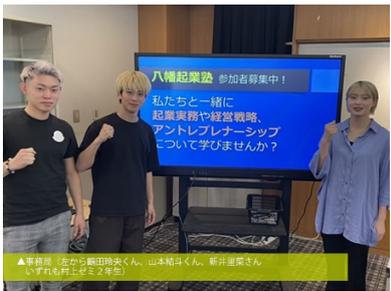
活動記録

- 2024/07/19 肉まんづくり 2回目@大蔵市民センター
 2024/07/24 リスク実習 2 キックオフ会議@九国大
 2024/08/25 大蔵納涼祭@大蔵公園
 2024/08/31 リスク実習 2 大蔵チーム企画書締切
 2024/09/09 企画書検討会議@大蔵市民センター
 2024/10/02 リスク実習 2 大蔵チーム打ち合わせ@九国大
 2024/10/09 リスク実習 2 大蔵チーム肉まんづくり@大蔵市民センター
 2024/10/16 リスク実習 2 大蔵チーム打ち合わせ@九国大
 2024/10/23 リスク実習 2 大蔵チーム打ち合わせ@九国大
 2024/10/26 「おおくらっ子」10月見学@大蔵市民センター
 2024/10/30 リスク実習 2 大蔵チーム打ち合わせ@九国大
 2024/11/13 リスク実習 2 大蔵チーム打ち合わせ@九国大
 2024/11/27 リスク実習 2 大蔵チーム打ち合わせ@九国大
 2024/11/30 おおくらっ子 11月実施@大蔵市民センター
 2024/12/08 餅つき大会@勝山北団地
 2024/12/11 リスク実習 2 大蔵チーム活動ふりかえり@九国大
 2025/01/10 リスク実習 2 大蔵チーム報告会打ち合わせ@九国大
 2025/01/22 リスク実習 2 活動報告会@九国大
 2025/01/30 研修会発表会事前打ち合わせ@大蔵市民センター
 2025/02/01 八幡東区まちづくり研修会@響ホール



2024（令和6）年度 地域連携推進事業 活動報告書

事業名	八幡起業塾を通じた学生への実践的まなびの提供、ならびに連携先との関係強化（包括的地域連携協定）
連携団体名	福岡ひびき信用金庫
本学教職員氏名	村上 真理（現代ビジネス学部 教授）
事業費の概要	九州国際大学地域連携センター 地域連携推進費
背景	<p>令和2年1月、本学では福岡ひびき信用金庫（以下、ひび信）と「包括的地域連携協定」を締結した。本協定は、地域の抱える諸課題に対して共に向き合い、様々な分野で連携・協力していくことを企図したものである。それ以来、現代ビジネス学部地域経済学科（経営コース）を中心に、以下のような共同研究を行ってきた。途中、コロナ禍による中断時期もあったが、概ね期待通りの成果をあげたと評価される。</p> <p>〔令和2年度〕 第1次研究「サービスと関係性からの実務アプローチ」</p> <p>〔令和3年度〕 第2次研究「金融機関と融資取引先との信頼とコミットメント」</p> <p>〔令和4年度〕 第3次研究「人材マネジメントに関する調査とデータ・アナリティクス」</p> <p>〔令和5年度〕 しんきん合同商談会へのブース出展、ひび信取引先9社への支援策（＝企業PR動画制作にかかるサポート）</p>
取組概要	<p>締結から5年目となる令和6年度は趣を変え、イベントの共催・共同参画を取組みの軸とした。これにより本学・ひび信の一体感を高め、Win-Winの関係性をもって地域貢献・社会貢献に努めたものである。加えて起業に対する関心の高まりや、自営業者の子弟における跡継ぎ教育ニーズ、さらには潜在的なアントレプレナーシップ醸成への期待といった背景要因のもと、地域経済学科 経営コース内に起業家養成のための常設勉強会「八幡起業塾」を創設した。ここでの取組みのうち、次節で掲げる項目について、ひび信との協働により対応した。</p>
事業内容	<p>1. 八幡起業塾の立ち上げ …… 今後の活動主体となる起業塾について、学年や所属コースを問わず10名程度の学生メンバーを募り、活動主旨の明確化ならびにメンバーへの意識付けを目的とした発足式を行った。基調講演には地元企業の経営者を招き、有意な講話を頂戴した。</p>

事業内容 (続き)	<p>2. ビジネスモデル・コンテスト …… ひび信が主催する「ビジネスモデル・コンテスト」へ昨年度に続いて挑戦した。なお、今回は八幡起業塾として参加したもの。対象企業は八幡西区の(株)マロン、テーマは「アパレルの無人販売の新たな事業モデル」であった。出場大学は本学その他、北九州市立大学、九州産業大学、福岡大学の4校。年々、開催規模が拡大している。</p> <p>3. 校外活動の実施 …… 優良企業の視察ならびに平和学習を目的に、夏期休暇中、1泊2日の日程で広島合宿を行った。</p> <p>4. 学内イベントのサポート …… 現代ビジネス学会主催の学術講演会(11月23日、講演者:八幡原圭氏)において、起業塾メンバーがパネルディスカッションのパネラーを務めた。</p>
効果・結果	<p>本事業は、包括連携ならでの規模の大きい取組みを核としたもので、メッセージ性と訴求力に富むものである。それゆえ本学・ひび信の両者による地域貢献姿勢を強く打ち出すことが可能であり、その意味では、今後の包括連携の先行事例となるものである。また、本事業に関わった学生は、地域における企業活動の実際を体験でき、それを通じて社会人基礎力が涵養されるほか、最終的に就職活動におけるモチベーションを高めることに繋がる。</p> <p>さらに、ひび信が地域金融機関であることから、金融リテラシー教育の効果も期待されよう。今年度は起業塾発足という新たな側面が付加された記念すべき年であり、試行錯誤の中にも、確かな方向性の認められる取組みを展開できたと評価したい。</p>
活動記録	<p>1. 八幡起業塾 発足式</p> <p>6月26日、大学院7号教室において『八幡起業塾』の発足式を行った。現代ビジネス学部長による開式挨拶の後、地域に密着した総合印刷業「ヨシミ工産株式会社」の小金丸数嘉社長(当時)による基調講演、そして初代塾頭を務める座覇駿くん(地域経済学科 村上ゼミ3年生)の開塾宣言と続き盛況のうちに閉幕した。発足時の参加学生は地域経済学科の学生を中心に2年～4年生の10名で、事務局は経営コース内に置かれる。座覇くんは「将来はアパレル系の会社を起業するのが夢。この起業塾でモチベーションを高めていけたらと思う」と話している。本学建学の理念である塾的精神を体現する活動を期待したい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="295 1662 686 1953">  <p>当初の塾生は2年～4年次生の10名</p> </div> <div data-bbox="778 1662 1169 1953">  <p>▲事務局(左から新田陽太くん、山本裕くん、新井理実さん、いづれも2年生)</p> </div> </div> <p>▲ 基調講演の聴講</p> <p>▲ 事務局のメンバー</p>

2. 広島合宿の実施

9月14～15日の日程で広島合宿を行った。初日は、広島最大の美容チェーン『ウエスタリア・フィールド』の藤田善洋社長へのインタビューと本社併設の基幹店「MONAD」の施設見学、2日目は原爆資料館や原爆ドーム、市内の被爆建物の見学など平和学習でした。限られた時間であったが、発足から日の浅い起業塾のメンバーには、充実の合宿となった。



▲原爆ドーム前での記念撮影



▲前列右から2人目が藤田社長

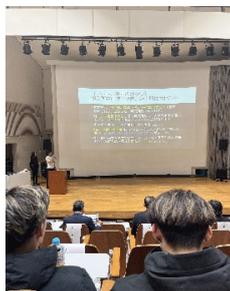
3. ビジネスモデル・コンテストへの参画

今回が3回目となるひび信主催「ビジネスモデル・コンテスト」へ八幡起業塾として挑戦した（11月25日）。テーマはアパレルの無人販売の新たな事業モデル。会場となった北九州市立大学の記念ホールは、各大学の斬新な発表が相次ぎ熱気に包まれた。受賞は逃したが今後につながる良い経験となった。

活動記録（続き）



▲中村さんと座覇くん



▲会場には多数の応援団も

4. 学内イベントのサポート

11月23日、大学祭『橘祭』の最中に開催された現代ビジネス学会学術講演会（講演者：八幡原圭氏）において、起業塾メンバーがパネルディスカッションのパネラーを務めた。ネギのブランド化に成功した八幡原さんの講演だけに、起業塾メンバーのパネラー起用は適任であった。



▲講演者の八幡原さん



▲学生3名によるパネラー

2024（令和6）年度 地域連携推進事業 活動報告書

事業名	スポーツでSDGsに繋げよう！
連携団体名	(1)独立行政法人国際協力機構九州センター (2)北九州市建設局道路計画課 (3)株式会社ギラヴァンツ北九州 (4)社会福祉法人慈恵会済美保育園 (5)九州旅客鉄道株式会社黒崎駅 (6)八幡祇園町銀天街協同組合
本学教職員氏名	木下 温子（現代ビジネス学部 准教授）
事業費の概要	九州国際大学地域連携センター 地域連携推進費
背景	2014年度より KIU Field を中心にサッカーやグラウンド・ゴルフなど「スポーツ」による地域交流をゼミ活動として行っていたが、2020年1月以降は新型コロナにより中止せざるを得なかった。そこで、間接的にできることとして、個人が健康に、快適に、安全に歩けるようにと、歩道に面した学内の荒地に花苗を植え、大学周辺のゴミ拾い、歩きたくなる環境を作りだすことにした。これが現在のボランティア活動に繋がっている。さらに、2023年からは、快適に安全に歩く環境を生かすために、JR九州「駅長おすすめのウォーキング」に大学を經由するコースとして参加している。また、2021年からは、JICAを通じ、使えるけど使わないスポーツ用品を海外に寄贈するなど、スポーツでできるSDGsを考え、取り組んでいる。

取組概要	<p>(1) 「JFA なでしこひろば」、「JFA チャレンジゲーム」(2020年コロナ禍により個人のスキルアップ追加)承認団体としてサッカー教室を定期的に行い、「JFA レディース/ガールズサッカーフェスティバル」を普及事業として開催</p> <p>(2) 北九州市「市民花壇」、「道路サポーター」、「公園愛護会」、2024年度「アダプト・プログラム」の助成を受け、ボランティア活動として、大学周辺の道路や公園花壇の清掃活動・安全管理 「やはたの日」合同清掃活動、学内の荒地(KIU Field横)にスイカ、サツマイモを栽培、ヒマワリ、平野小学校跡地(学生駐車場の山手)の活用</p> <p>(3) 「JR九州駅長おすすめのウォーキング」2024年秋コースとして、JR八幡駅から大学(大学祭)経路を実施 KIU Fieldでは体力測定やウォーキングフットボールができるよう「健康・スポーツ」イベントに発展させ、地域の方へのグラウンド開放</p> <p>(4) JICA九州センター訪問(2年生ゼミ)、JICA「世界の笑顔のために」プログラムに応募</p>
------	--

<p>事業 活動 内容 および 効果・ 結果</p>	<p>(1) 「JFA なでしこひろば」</p> <p>2024年5月18日（土）9名、6月23日（日）18名、7月28日（日）26名、12月22日（日）40名（計4回、93名）</p> <p>JFA「キッズリーダー」を取得したコーチ（ゼミ3年）が、指導案作成、付帯イベントなどを企画運営。月1回の開催を目指すも、部活のスケジュール、熱中症予防、雨天中止などが影響した。7月の「スイカ割り」は人気企画であり参加申込も多かったため、急遽、スイカ2玉を準備した。「大きくておいしいものを、冷やしておくね！」と毎年恒例であることから、近隣スーパーのスピナさんの協力も万全。12月の「クリスマス企画」の日は、極寒の予報であったため、事前に保護者も参加するように呼びかけていた。当日、「いやいや動けない、入れない」と言いつつも、勧誘に成功。「手つなぎナンバーコール」（チームみんなで手を繋いでGK、笛の数だけFPとなるゲーム）などを親子一緒に行った。終了後には、「楽しかった」、「サッカー初めてだったけど、楽しくできた」など、お礼のメールもいつもより多く届いた。</p> <p>「JFA レディース/ガールズサッカーフェスティバル」</p> <p>2025年3月2日（日）応募者数58名（雨天中止）</p> <p>年に1回、女子サッカー普及のためのJFA事業を本学で開催している。今回の周知は、JR八幡駅、スポーツ教室、スーパーなど近隣施設に約10カ所のポスター貼付（コロナ以降中止）を再開した。「JFA なでしこひろば」の参加者も増加傾向にあったこと、JFA キッズリーダーを取得した新3年生へ引き継ぐイベントであったことから、雨天中止は悔やまれる。中止による混乱はなかったが、屋外イベントは天候に左右されたため、避難場所、連絡体制などリスク管理の重要性を再認識できた。</p> <p>これらのイベントは、ギラヴァンツ北九州のスクールコーチよりスクール生への周知、スクールコーチがイベントスタッフとして参加することもあり、連携がとれた活動となっている。</p> <p>(2) 「8」のつく日の活動</p> <p>2024年4月8日、4月18日、4月28日、5月8日、5月18日、5月28日、6月8日、6月18日、6月19日、6月28日、7月8日、7月10日、7月28日、8月8日、8月10日、8月28日、9月18日、9月29日、10月9日、10月18日、11月5日、12月8日、12月18日、1月28日、2月9日、2月18日、3月8日、3月18日、3月29日（計29回+α）</p> <p>北九州市ボランティア「市民花壇」、「道路サポーター」、「公園愛護会」は、ゼミが参加した「やはたの日」をサッカー部に発展させ、毎月8、18、28日を中心にSDGsとして行っている。活動はゴミ拾いSNS「ピリカ」、サッカー部Facebookに投稿（ピリカとFacebookと連携）していたが、FBの不具合により2024年9月17日以前の投稿記事は削除されている。活動内容は、大学</p>
--	--

周辺（国際通り、さくら通り、ひびき通り、山手通り、学生駐車場など）の清掃、除草・剪定作業、道路の点検、花壇への栽植、灌水などである。

10月8日（火）は、「KEYAKI TERRACE YAHATA」の「やはたの日」特別編八幡駅前エリア一斉清掃活動に参加し、近隣団体と一緒に活動予定であったが、雨天中止となった。また JICA 九州と合同清掃活動を春、秋、冬に予定するも、天候や都合が合わず実現できなかった。一方、「アダプト・プログラム」は、参加条件（北九州市道路サポーターとして3年以上の活動）を満たすことから申請したところ、30/215 団体となり助成を受けることになった。本プログラムをきっかけに、清掃活動を動画配信したり、いつでも誰でも簡単に参加できるイベント性のある活動にしたり、多くの人を巻き混む、考えてもらう啓蒙活動にしていこうと進めているところである。本活動について、北九州市より、「道路サポーターの会」で活動発表を依頼されたが、都合が合わず断念した。他団体が高齢により活動の継続が困難になっている中、大学生が大人数で定期的に活動していることは評価されているようである。

花苗は、春（6月）・秋（11月）それぞれ440株が支給されるため、花壇が「映え」るように試行錯誤して栽植している。これらの工夫が評価され、令和6年度第29回北九州市花と緑のまちづくりコンクールで新人賞を受賞した（授賞式：10月20日（日）@北九州市水環境館）。その他、学内の荒地には夏はスイカや秋はサツマイモなど実をつける植物に挑戦した。スイカは小さな実をつけた頃にカラスに食べられ失敗、サツマイモは「パープルスイートロード」（中も外も赤い品種）、「しろほろり」（中も外も白い品種）苗を植え、大小20個程収穫した。珍しい品種であったが、甘味が少なくおいしく食べるほどではなかった。ヒマワリは2年前に咲かせた花から取った種を撒いてみたが、芽は出るも花を咲かせるまでには至らなかった。植物を育てることに成功、失敗はあったものの、歩行者からは「お花を見るために遠回りしている」、「いつもありがとう」、「スイカの成長が楽しみ」、「カラスが狙ってたよ」、「今年はサツマイモ植えたね」などと声をかけられることも多くなり、コミュニケーションのきっかけとなっている。「サッカー部です。今度、応援に来てください！」などと返事しつつも、地域の方々から見られていることを実感できる。

(3) 駅長おすすめ JR 九州ウォーキング（約 6km コース）

2024年11月24日（日）JR 八幡駅参加受付 444名

JR ウォーキングは、今回で25周年を迎える歴史あるイベントで、秋編が全78コース紹介されている。多いときには1コース1000名近くが参加することもあることから、大学祭の集客アップも狙い、開催日程を合わせた。しかし、同日は、ソフトバンクホークスのパ・リーグ優勝パレード、築城基地航空祭、駅長対抗2024ご当地井総選挙など各地でビックイベントが開催され

たこともあり、参加人数は 444 名（昨年度 525 名）であった。JR 八幡駅からコースの要所にサッカー部員が立ち、大学までのコースを案内した。内容としては、KIU Field でお菓子まき、体力測定（握力、長座体前屈、50m 走など 8 種目）ウォーキングフットボール、PK 対決など、楽しんで体を動かすブースを設けていた。気軽に参加できること優先した結果、参加者受付をなくし、記録用紙配布もやめていたところ、KIU Field への参加者が不明、測定項目が不明、全ての項目をクリアした不明など、指標がないことで、参加者を混乱させてしまった。シミュレーションして準備していたが、効率化と簡略化のバランスの重要性に気づかされた。

(4) JICA「世界の笑顔のために」プログラム

2024 年 7 月 2 日（火）JICA 九州センター訪問、2 年ゼミ 15 名

今回は初めてワークショップ形式で参加し、JICA や SDGs について学んだ。私たちができることを考え行動に移したものが、これまでも 2021、2022 年度に参加したことがある「世界の笑顔のために」プログラムである。

2024 年度秋募集で募集対象となったもののうち、サッカーユニフォーム 11 着（ケニア）、音楽 CD3 枚（ザンビア）が採用された。サッカー部が以前使用していたユニフォームの中から、サイズが大きめ、状態の良いものを選出し、洗濯、梱包、送付した。約 3 年でユニフォームを新調しており、以前使っていたユニフォームは、「使えるけど使わないもの」として部室の端に眠っている。サッカーの用品が満足に揃って活動が出来ていることが当たり前ではないことに直面し、モノを大事にすること、日本で恵まれた生活が送れていることに気づき、感謝する機会となる。募集開始日に手続きをしたが、既に応募締め切りされている物品もあり関心の高いプログラムであることが分かる。



JFA なでしこひろば



北九州市「道路サポーター」



JR 駅長おすすめウォーキング



JICA「世界のえがおのために」プログラム

活動記録

2024（令和6）年度 地域連携推進事業 活動報告書

事業名	学生の地域貢献意欲の向上および住民交流促進事業
連携団体名	中央町連絡協議会・結（YUI）
本学教職員氏名	栞畑恭介（現代ビジネス学部准教授）
事業費の概要	九州国際大学地域連携センター 地域連携推進費
背景	<p>本事業は、開始から8年目を迎える取り組みである。連携先である「八幡中央町連絡協議会・結」は、中央町地区で活動する企業やNPOなど、多様な地域主体が参画する組織である。学生たちは、こうした地域の多様な担い手と協働しながら地域活動に関わることで、八幡地域への理解や愛着を深めるとともに、自らの地域貢献への意欲を育んできた。それぞれの活動において、立場や視点の異なる地域の方々と意見を交わすことが、学生にとって貴重な学びの機会となっている。</p>
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第75回八幡東区子どもまつりへの参加 (2) 里山整備作業体験と里山祭への参加 (3) ふれあい菜園活動への参加 (4) 子ども食堂「ちゅうおうまち食楽福亭」への参画

事業 活動 内容	<p>(1) 第 75 回八幡東区子どもまつりへの参加</p> <p>八幡東区子どもまつりは、まちづくり協議会など地域の住民組織が中心となり、地域コミュニティ発のお祭りとして開催されている。今回、八幡中央区商店街が会場になったこともあり、お声かけいただいた。学生がスタッフとしてステージ運営を支えたほか、巨大モグラたたきやミニカフェなどのブースが好評を得た。</p> <p>(2) 里山整備作業の体験（5月）と「里山祭」への参加（11月）</p> <p>北九州市内に点在する里山や竹林などの自然資源は、人の手が継続的に加わることでその姿を保っている。そうした「人と自然の関係性」について理解を深めることを目的に、5月には北九州里山トラスト会議の協力のもと、地域づくりコースの学生が八幡西区小嶺地区の里山で遊歩道整備などの保全作業を体験した。</p> <p>また、一部の学生は11月に開催された「第17回里山祭」に運営スタッフとして参加し、来場者とともに里山の魅力を体験的に共有する中で、地域資源の活用や継承に関する理解を深める機会となった。</p> <p>(3) ふれあい菜園活動への参加</p> <p>八幡大谷まちづくり協議会が取り組む「ふれあい菜園事業」に対し、学生は継続的に参加しており、世代を超えた交流の場づくりに寄与している。農作業の担い手として要所で労働力を担ってきた。しかし、例年参加している八幡小学校3年生との収穫祭については、今年度は授業との日程重複により参加がかなわなかった。次年度も引き続き参加していく予定である。</p> <p>(4) 子ども食堂「ちゅうおうまち食楽福亭」への参画</p> <p>八幡中央区商店街で毎月第一土曜日に開催される子ども食堂「ちゅうおうまち食楽福亭」に、学生はスタッフとして積極的に参加している。学生たちは、食堂の運営において重要な役割を果たすだけでなく、今年度は12月に大規模に参加し、大学生主催の企画やブース運営を行った。</p> <p>商店と来場者をつなげることを目的に、今年のクリスマスイベントでは「SDGs」をテーマにしたクリスマス&SDGs企画を実施。協力する各商店に学生を配置し、クリスマスクイズラリーを実施して子どもたちを商店に呼び込み、交流の場を創出した。また、八幡中央区商店街が「SDGs商店街」を掲げていることから、ペットボトルツリー作成コーナーを設け、SDGs商店街のPRも行った。さらに、学生が企画する八幡の絵本づくりの一環として、絵本の読み聞かせを実施した。この活動は予備調査も兼ねており、地域貢献を目指した取り組みとなった。</p>
----------------	--

効果・結果	<p>地域活動における学生は、体力や創造力を活かして積極的に貢献できる一方で、活動の継続性や地域との信頼関係の構築には課題もある。本事業は、そうした課題に対応しつつ、学生が地域の一員としての役割を果たし、主体的に地域課題の解決に取り組むための仕組みとして機能している。</p> <p>各取り組みにおいては、学生が地域の課題や状況を受け止めたうえで、自らにできることを考え、企画・実行へとつなげていた。たとえば子ども食堂では、来場した子どもたちと商店やボランティアスタッフを自然な形でつなぐ「つなぎ役」としての企画を考案・実施した。</p> <p>また、今年度は新たな試みとして「第75回八幡東区子どもまつり」への参加も行われ、地域イベントの運営に関わることで、地域とのつながりをさらに強めることができた。一方で、昨年度に実施された子ども食堂での高齢者向けの企画や、ふれあい菜園での収穫祭といったいくつかの取り組みは本年度は見送られたものの、その方向性は学生の中で継承されており、今後の展開が期待される。</p> <p>こうした活動を継続することで、地域に対しては学生の柔軟な発想力や行動力を活かすことができ、学生にとっても実践的な学びの場となっていくことが期待される。</p>
-------	--



八幡東区子どもまつりの様子



里山での取り組み風景



活動記録



ちゅうおうまち食楽福亭（子ども食堂）での様子

令和7年6月15日発行

地域連携推進事業活動報告書

(令和6年度)

編集発行 九州国際大学地域連携センター
〒805-8512
北九州市八幡東区平野一丁目6番1号
TEL 093-671-8936

印刷所 東筑印刷株式会社